

「日野川の源流と流域を守る会」が第13回日本水大賞で 「厚生労働大臣賞」を受賞しました。

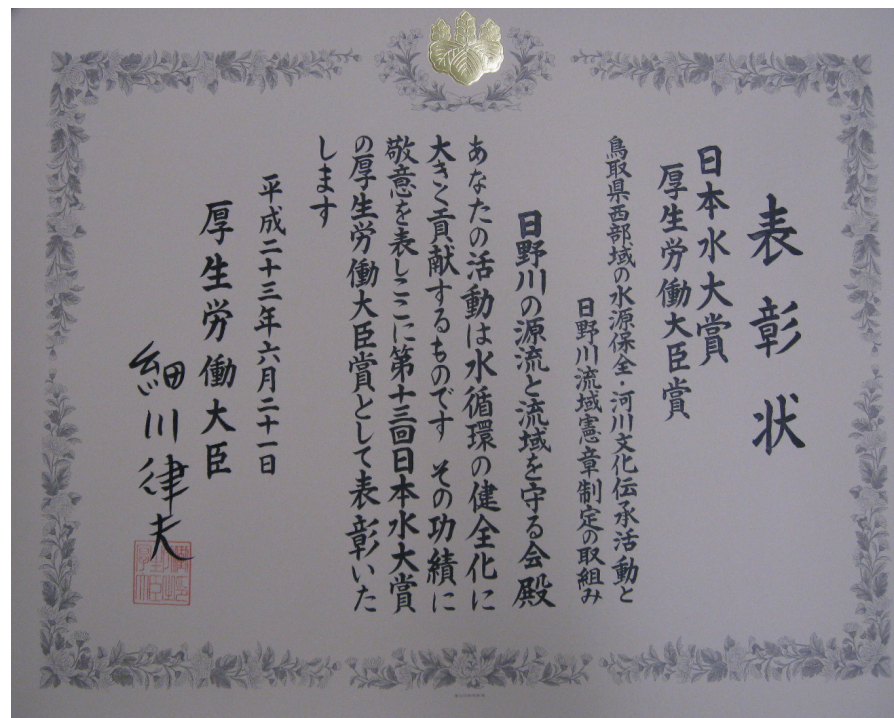
日野川流域憲章情報連絡会のメンバーである「日野川の源流と流域を守る会（事務局：日野総合事務所県民局内）」が流域憲章の理念にそった河川環境保全啓発や流域の文化伝承活動等が高く評価され、第13回日本水大賞「厚生労働大臣賞」を受賞しました。

表彰式は、平成23年6月21日（火）に秋篠宮殿下のご臨席のもと東京都江東区の日本科学未来館で開催され、また、その模様は中海テレビ放送でニュースとして大々的に報道されました。今後さらに連携を深めて幅広い活動をも引き続き展開していきたいと考えていますので、皆様のご協力をお願いします。

なお、「日野川の源流と流域を守る会」の活動内容等は、受賞活動集（抜粋版）をご参照下さい。



表彰式の状況（表彰状を受け取る
会長の能勢隆之鳥取大学長）



日本水大賞厚生労働大臣賞の表彰状

第13回

日本水大賞

2011日本ストックホルム青少年水大賞

受賞活動集



平成23年6月

日本水大賞委員会

ごあいさつ

日本水大賞名誉総裁の秋篠宮文仁親王殿下ならびに同妃殿下をここにお迎えして、第13回「日本水大賞」の贈呈式を執り行えますことを心からお礼申し上げます。

地球は真っ暗闇の宇宙に浮かぶひとつの惑星ですが、水が液体として存在する太陽系唯一の惑星でもあります。太陽の安定した光のおかげで、地球表面の大部分がいつも水に取り囲まれ、生命は誕生して約40億年つながってきました。地球外から飛来する隕石の衝突、地球内部からマグマの噴出、地球表面プレートの移動に伴う大地震など、大きなエネルギー変化が環境にもたらされるたびに、たくさんの生命が一時的に失われました。しかし、局所的に強いエネルギーは水の存在によって、弱められるため地球表面の全体環境は極端に変化することなく、失った生命を復活させてつながってきました。

現在宇宙ステーションは、地上から約四百キロメートルの軌道を九〇分間で地球を一周しています。太陽の明るい光に照らされた側の地球には海、湖、川の水が青く輝き、雪、氷、雲は白く輝いています。そこから肉眼では人間の姿は見えません。しかし、太陽の光が届かない半球は暗い夜となり、昼間見えなかった人間の存在が明るい電気エネルギーの輝きとして見えてきます。陸地のあるところは、どこにも人間が住んでいることにあらためて驚かされます。多くの人が住んでいる都市ほど明るい光の集団になっていますが、その光がまるで編み目のように、つながっていることに、気づかされます。よく見るとそのつながりは道路や鉄道にそっていることがわかります。しかし、現在、私たちはすでに、目では見えない電波によって携帯電話や、インターネットによってもつながっています。

自然の水や空気のつながりばかりではなく人間自身が生み出した科学技術によって、七〇億人がつながり、住むことができる惑星になりました。しかし自然環境を人間の都合で変えてきたため、そのほかの多様な地球生命に影響が出始め、逆に人間の生活にも悪影響を及ぼす心配もでて来ました。地球の持つ大きなエネルギーはいかに科学技術でもコントロールすることはできません。この自然の力による水災害から私たちのいのちを守りつつ、生活に必要で安全な水の確保と、自然の中に住む多様な生命と、うまく未来へつながって行く方法を謙虚に考える智慧がとても重要です。

本日表彰される研究や活動は私たちが将来へ生き延びていく智慧を見つけるすばらしい試みと思います。このすばらしい選考のために労をとられた選考委員会の皆様方のお力添えに深く感謝申し上げます。また応募された個人と諸団体の皆様方、および主催、後援団体の皆様方のご協力にも感謝申し上げます。

平成23年6月21日

日本水大賞委員会
委員長 毛利 衛

目 次

第13回 日本水大賞 [受賞活動]

| | | | |
|---------|--|--------------------------------|-----|
| 大 賞 | 水辺に人が集まるまちづくり ～吉野川をはさんだ水際交流拡大 プロジェクト～ | 特定非営利活動法人 新町川を守る会 | 18 |
| 国土交通大臣賞 | 荒川発！主体間連携によるパートナーシップ を実現した環境保全活動 ～過去16年の軌跡と飛躍する17年目の クリーンエイド～ | 特定非営利活動法人 荒川クリーンエイド・フォーラム | 22 |
| 環境大臣賞 | 日本まると海底、湖底、海浜清掃 | 海をつくる会 | 29 |
| 厚生労働大臣賞 | 鳥取県西部域の水源保全・河川文化伝承 活動と日野川流域憲章制定の取り組み | 日野川の源流と流域を守る会 | 38 |
| 農林水産大臣賞 | 伊豆沼・内沼および伊豆沼・内沼上流域、 周辺水田の自然生態系保全活動 | ナマズのがっこう | 44 |
| 文部科学大臣賞 | アマモマーメイドプロジェクト | 福井県立小浜水産高等学校 ダイビングクラブ | 55 |
| 経済産業大臣賞 | 利根川源流域における100年にわたる 水源涵養の森づくり | 磯村産業株式会社及び 磯村豊水機工株式会社 | 60 |
| 市民活動賞 | 長野市松代町内の河川愛護活動 | 松代町河川愛護会 | 65 |
| 国際貢献賞 | 甦れ!!魚たち ～紫川再生の経験をフィリピンに移転した～ | 紫川を愛する会 | 70 |
| 未来開拓賞 | つくば市環境IEC運動ヤゴ救出大作戦 | つくば市教育委員会 | 75 |
| 未来開拓賞 | 女子高生による水環境改善キャラバン | Blue Earth Project | 81 |
| 未来開拓賞 | 小さな宮古島の100年後の「命の水」と 「食」を守るプロジェクト | 沖縄県立宮古総合実業高等学校 環境班 | 85 |
| 審査部会特別賞 | 津波防災への啓発活動 | 岩手県立宮古工業高等学校 機械科 課題研究 津波模型班 | 91 |
| 審査部会特別賞 | 捨てられる外来種・外来カメに里親を捜し、 いのちの川 多摩川を守る活動 | おさかなポストの会 | 97 |
| 審査部会特別賞 | 佐鳴湖の自然に親しむ会 ～夫婦による24年間の環境教育活動～ | 高橋 和彦・恵子 | 102 |

2011 日本ストックホルム青少年水大賞 [受賞活動]

日本S JWP大賞 水環境における外来種問題の
情報ネットワーク構築 向上高等学校 生物部 107

優秀賞 「甦れ、山口県のオオサンショウウオ」
一川の守神オオサンショウウオと人間の
共生に関する基礎研究一 高川学園中学・高等学校 科学部 112

受賞者へお祝いの言葉 118

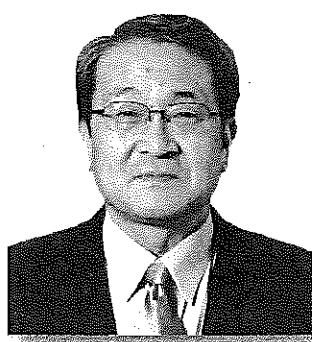
徳島県知事 飯泉 嘉門
東京都知事 石原 慎太郎
神奈川県知事 黒岩 祐治
鳥取県知事 平井 伸治
宮城県知事 村井 嘉浩
福井県知事 西川 一誠
群馬県知事 大澤 正明
長野県知事 阿部 守一
福岡県知事 小川 洋
茨城県知事 橋本 昌
兵庫県知事 井戸 敏三
沖縄県知事 仲井眞 弘多
静岡県知事 川勝 平太
山口県知事 二井 関成

日本水大賞 協賛各社紹介 126

日本水大賞委員会



委員長
日本科学未来館 館長
毛利 衛



副委員長
日本水大賞審査部会長
法政大学 客員教授
虫明 功臣



日本ストックホルム
青少年水大賞審査部会長
東京農工大学 農学研究院 教授
千賀 裕太郎

● 委員会委員名簿

日本水大賞委員会 委員名簿

| 名誉総裁 秋篠宮文仁親王殿下 | | |
|----------------|-------------------|-----------------------------|
| 役職 | 氏名 | 所属・役職等 |
| 委員長 | 毛利 衛 | 日本科学未来館 館長 |
| 副委員長 | 虫明 功臣 | 法政大学大学院工学研究科 客員教授 |
| 委員 | 赤星 たみこ | 漫画家 |
| | 石井 弓夫 | (株)建設技術研究所 相談役 |
| | 大垣 眞一郎 | (独)国立環境研究所 理事長 |
| | 大田 弘 | (社)日本建設業連合会 環境委員長 |
| | 進士 五十八 | 東京農業大学 名誉教授 |
| | 須藤 隆一 | 生態工学研究所 代表 |
| | 千賀 裕太郎 | 東京農工大学大学院 農学研究院 教授 |
| | 伝川 幹 | (株)読売新聞東京本社 取締役編集局長 |
| | 徳川 恒孝 | 公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン 会長 |
| | 福島 秀男 | (社)日本経済団体連合会 廃棄物・リサイクル部会長代行 |
| | 藤吉 洋一郎 | 大妻女子大学文学部 教授 |
| 松田 芳夫 | 公益社団法人 日本河川協会 副会長 | |
| 特別委員 | 竹 歳 誠 | 国土交通事務次官 |
| | 南川 秀樹 | 環境事務次官 |
| | 阿曾沼 慎司 | 厚生労働事務次官 |
| | 町田 勝弘 | 農林水産事務次官 |
| | 松永 和夫 | 経済産業事務次官 |

日本水大賞委員会 審査部会委員名簿

| 役職 | 氏名 | 所属・役職等 |
|-----|--------|-----------------------|
| 部会長 | 虫明 功臣 | 法政大学大学院工学研究科 客員教授 |
| 委員 | 赤星 たみこ | 漫画家 |
| | 浅枝 隆 | 埼玉大学大学院理工学研究科 教授 |
| | 浅羽 雅晴 | (独)科学技術振興機構 参与 |
| | 池田 裕一 | 宇都宮大学大学院工学研究科 准教授 |
| | 太田 進 | (独)環境再生保全機構 理事 |
| | 大野 重男 | (財)ハーモニイセンター 理事長 |
| | 風間 ふたば | 山梨大学大学院医学工学総合研究部 教授 |
| | 河崎 和明 | (財)河川環境管理財団 審議役 |
| | 重 政子 | NPO法人自然体験活動推進協議会 評議委員 |
| | 柴田 文隆 | (株)読売新聞東京本社 科学部長 |
| | 清野 聡子 | 九州大学大学院工学研究院 准教授 |
| | 高木 宏明 | (社)国際環境研究協会 理事 |
| | 玉岡 かおる | 作家 |
| | 藤原 正弘 | (財)水道技術研究センター 理事長 |
| | 水谷 正一 | 宇都宮大学農学部 教授 |
| | 森 誠一 | 岐阜経済大学経済学部 教授 |
| | 山田 正 | 中央大学理工学部 教授 |

日本ストックホルム青少年水大賞 審査部会委員名簿

| 役職 | 氏名 | 所属・役職等 |
|-----|----------|-------------------------|
| 部会長 | 千賀 裕太郎 | 東京農工大学教授 農学研究院 教授 |
| 委員 | 木村園子ドロテア | 東京農工大学 農学府 国際環境農学専攻 准教授 |
| | 清水 義彦 | 群馬大学大学院 工学研究科 教授 |
| | 清水 芳久 | 京都大学大学院 工学研究科 教授 |
| | 谷田 一三 | 大阪府立大学大学院 理学系研究科 教授 |
| | 森本 弘一 | 奈良教育大学 理科教育教室 教授 |

※所属、職名は平成23年6月1日現在

第13回

日本水大賞
2011日本ストックホルム青少年水大賞

受賞活動

表彰式：平成23年6月21日

日本水大賞委員会

審査講評 第13回 日本水大賞委員会 審査部会長 虫明功臣

日本水大賞は、今回第13回を迎えました。審査部会長として、今回の「日本水大賞」への応募状況ならびに審査・選考の経過についてご報告申し上げます。審査部会は、日本水大賞委員会のもとに各賞の候補を選考するために設けられており、水防災・水資源・水環境・水文化等の分野の専門家や学識経験者18名で構成されています。今回から、従来の「奨励賞」を「未来開拓賞」と改名しました。審査は、「日本水大賞」募集要項に記された「対象の範囲」および「審査基準」を基に進められました。各賞の候補となった活動は、日本水大賞委員会に報告され、審議の結果、“大賞（グランプリ）”をはじめとする日本水大賞の各賞が決定されました。

応募状況

本年の応募総数は157件で、昨年に比べて微増しましたが、引き続き、広報活動を強化し、新たな活動の発掘などを進めてゆく必要があると考えています。応募活動を主体別に見ると、団体が55%、個人が18%、学校が18%、企業が8%、行政が1%となっており、企業からの応募が少し増えましたが、行政からの応募が少なくなっています。活動分野別では、例年とほぼ同様の傾向で、水環境52%、水文化20%、水資源17%、水防災11%となっています。

審査結果：各賞の受賞者と活動名称および審査講評を以下に示します。

○厚生労働大臣賞：鳥取県 日野川の源流と流域を守る会

「鳥取県西部域の水源保全・河川文化伝承活動と日野川流域憲章制定の取り組み」

「日本一の激ウマの水道水」と誇りを持つ米子市の水道局職員が中心となって始めた活動は、日野川全体の一斉清掃や日野川最源流域での水源涵養林の取得から川にまつわる歴史や伝統文化の発掘・伝承へと広がり、「日野川の源流と流域を守る会」の設立に繋がります。そして、この会が自治体・行政機関、環境活動諸団体、企業などに広く呼び掛け、流域圏の産官学民33団体の賛同を得て、河川環境の保全や流域文化の伝承の理念を基として地域活性化を目指す「日野川流域憲章」の制定へと発展します。この流域憲章のもとに、ボランティアによる源流水源林の保全、参加団体との共催による各種イベントの開催など、多彩な活動を展開しています。

水供給者が熱意と誇りをもって主導し、日野川流域圏の様々な主体の連携を実現して、水循環健全化の活動を進めていることが高く評価されます。

第13回 日本水大賞
2011 日本ストックホルム青少年水大賞

受賞活動

日本水大賞委員会

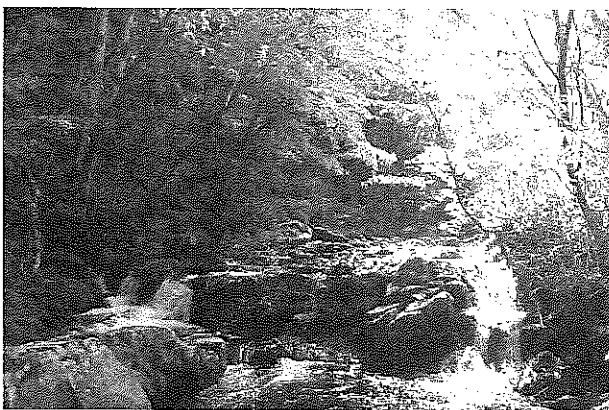
鳥取県西部域の水源保全・河川文化伝承活動と 日野川流域憲章制定の取り組み

日野川の源流と流域を守る会

1 はじめに

1.1 日野川と私たちのかわり

日野川は、鳥取県西部を潤す一級河川です。北の河口部は日本海に、南は中国山地の三国山を源流とする全長約77キロメートルの鳥取県内最長の川です。流域約25万人もの生命や自然を育てているのです。日野川は大山隠岐国立公園の麓を流れ、自然豊かな環境にあり、貴重な動植物や様々な生物が生息しています。上流部は豊かな自然に囲まれた清流で、アユやイワナ、ヤマメなども多く生息しています。下流部には運動公園や桜の公園、皆生海岸があり、多くの人たちの憩いの場として利用されています。遠く江戸時代にはたたら製鉄が盛んに行われました。その土砂が日野川によって運搬され、河口からのびる弓ヶ浜半島の砂州ができる要因となりました。このように母なる川である恵み豊かな日野川は、私たちの生活や文化、自然環境に大きな影響を与えてきました。



日野川源流の清いながれ

1.2 日野川の源流と流域を守る会の思い

「日野川の源流と流域を守る会」は、このような日野川流域の豊かな自然環境を守り、次世代を担う子どもたちに美しい日野川を引き継ぎ、日野川を日本一美しい川にすることを理念として、平成14年4月22日に誕生しました。

「日野川の源流と流域を守る会」設立趣意書

日野川は、流域に住む住民の生命と健康、そして豊かな文化や風土を育むとともに、豊かな大地の恵みから、多くの産業発展の基礎となっています。私たちは、そこからもたらされる多くの恩恵を当たり前のもとして、受け取ってきました。その恵みは、源流にとどまらず、遠く日本海にもそそがれ、豊かな海の源泉となり「森は海の恋人、川は仲人。」といわれるゆえんともなっています。今日、その日野川のもつ多様な機能の認識が深まっています。そして、この日野川を恵まれた環境のまま、次の世代へ引き継ぐためには、流域に住む私たちが、源流と流域の自然環境を守ることに積極的に取り組んでいくことが求められています。

このような背景から、日野川流域に住む私たちが、お互いに交流と連携、情報交換をおこない、これからの日野川の源流や流域のあり方を考え、提案し、行動していくことが、今の私たちに課せられた大きな使命です。源流から河口、支流から本流に至る、すべての日野川流域の自然環境を守り、子どもたちに美しいままの日野川を引き継いでいくために、ここに「日野川の源流と流域を守る会」を設立します。

当会ではふるさとの美しい自然と共存した豊かな文化を次世代に引き継ぐために、日野川源流を訪ねる旅や日野川の良さを体感する旅、森林を守る活動、川と海を守る活動、川の楽校などの森や水に親しむ活動をおこなっています。また、日野川の良さを広く伝えるため、上下流住民の交流活動を展開しています。



日野川の源流を訪ねる旅



日野川の源流を訪ねる旅(日野川源流の碑)



源流域の森林を整備する活動



日野川流域の歴史を知る旅(金持神社)



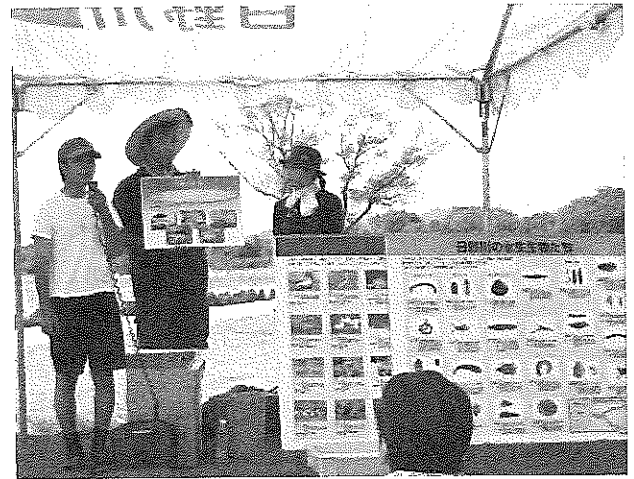
森の楽校(森の生き物たちを学ぶ)



川の楽校(興味深いぞく子どもたち)



川の楽校(水に親しむ子どもたち)



川の楽校(川の生き物たちを学ぶ)

2 水を守る活動のはじまり

2.1 米子市のうごき

下流の米子市では、昭和40年代から上流域における市行造林事業の推進などの水源かん養関連施策が段階的に実施されていました。

2.2 米子市水道局のうごき

米子市・境港市など19万人弱に地下水を水源とするおいしい水を供給する米子市水道局では、平成元年から「日野川クリーン作戦」として河川敷の清掃活動が毎年実施されています。また、平成9年には日野川最源流域に約100haの水源かん養林を取得しました。さらに、平成14年からは、国土交通省を中心とする7月の河川愛護月間にあわせた流域全体の日野川一斉清掃と合同した活動が続けられています。河川環境保全を率先して推進する取り組みが進められています。

3 日野川流域憲章制定への取り組み

3.1 制定に向けて

次第に顕在化する環境汚染への対策を迫られる状況下で、大山・日野川流域圏の豊かな自然から育まれる水環境や水資源の重要性を再認識することが必要になってきました。そして、河川環境保全はもとより川にまつわる歴史や伝統文化を流域住民へ広め、次の世代へ引き継いでいくための理念を求める声が次第に高まってきました。これを受けて、当会や河川環境・文化啓発活動団体が中心となって「日野川流域憲章」制定を流域圏の諸団体に呼び掛けました。

9市町村に及ぶ流域圏全体を対象とする憲章の制定を、どのような組織、体制で実現していくかが

大きな課題でした。産官学民の幅広い協働という理念を尊重しながら、国土交通省日野川河川事務所と鳥取県、米子市水道局を中心として協議会的に運営することになりました。そして、平成20年6月には当会も参画して日野川流域憲章制定実行委員会(委員長 能勢隆之鳥取大学長)が結成され、制定への歩みを着実に進めました。流域圏の関係行政機関や環境活動団体、民間企業等の多くの賛同を得ることができました。平成20年8月23日になって、産官学民33団体の協働と連携の成果として、日野川流域憲章の制定を実現することができたのです。

3.2 日野川流域憲章制定実行委員会への参加団体

【団体】日野川の源流と流域を守る会、王子製紙(株)米子工場、サントリー天然水(株)奥大山プナの森工場、西部土地改良区、大山・中海・隠岐エコツーリズム協議会、大山・日野川・中海学協会、(社)中国建設弘済会、Doスポーツ、(社)鳥取県建設業協会西部支部、(社)鳥取県建設業協会日野支部、(社)鳥取県測量設計協議会、鳥取日野森林組合、日野川水系漁業協同組合、米川土地改良区、米子カヌークラブ、箕蚊屋土地改良区、米子市尚徳公民館

【行政】鳥取県日野総合事務所、鳥取県西部総合事務所、国土交通省日野川河川事務所、鳥取県企業局西部事務所、米子市、境港市、日吉津村、大山町、南部町、伯耆町、江府町、日野町、日南町、米子市水道局

【個人】2名(環境啓発活動家、地元シンガーソングライター)

3.3 日野川流域憲章とは

日野川流域憲章の前文で日野川の価値観をうたい、理念で6項目の努力目標を掲げています。

「日野川流域憲章」

【前文】

私たちは悠久の時の流れの中で、多くの恵みをもたらしてくれた日野川、その流域のすばらしい自然・環境を守り、日野川の清流化に向けて活動します。日野川はたくさんの動植物の生命を育み、たくさんの人たちの生活も支えています。また、日野川流域には伝統ある生活文化・芸術が育まれています。私たちは日野川の歴史・自然を学び、よく理解して、より豊かできれいな日野川の流れを後世に残すために、みんなで力を合わせて活動します。そのために、ここに「日野川流域憲章」をつくり、多くの人たちの参加・協力をよびかけます。

【理念】

- ・日野川流域の自然・環境を守り、川と私たちがとのすばらしい共存に努めます。
- ・日野川のきれいで豊かな流れが、いつまでも続くように美しい緑の森を守り、育てるように努めます。
- ・日野川流域の交流・連携をすすめます。
- ・日野川流域の歴史・生活文化を学び、その知識を次世代に引き継ぐように努めます。
- ・日野川流域に培われてきた、さまざまな価値ある魅力を大切にして、継続的な地域の発展に努めます。
- ・日野川流域を愛する人たちの輪が広がるように努めます。

平成20年8月23日

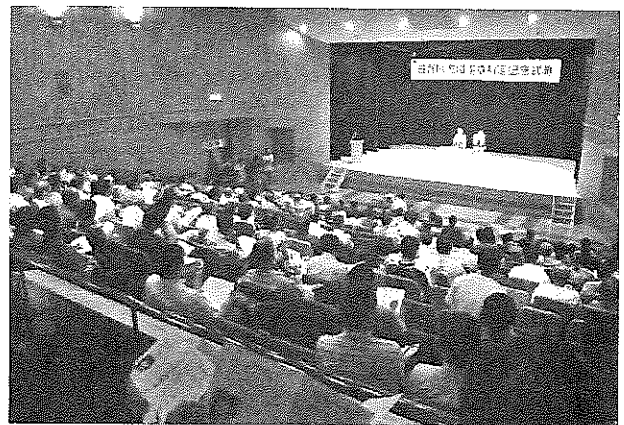
日野川流域憲章制定実行委員会

3.4 盛大な記念式典

日野川流域憲章制定記念式典は、平成20年8月23日午前10時に伯耆町宇代の「鬼の館」で盛大におこなわれました。式典には、関係行政機関や流域小中学校、住民代表などの約250人が出席しました。

主催者を代表し、大山・日野川・中海学協会副会長があいさつされ、米子市水道事業管理者が憲章制定の経過について説明されました。日南町立日

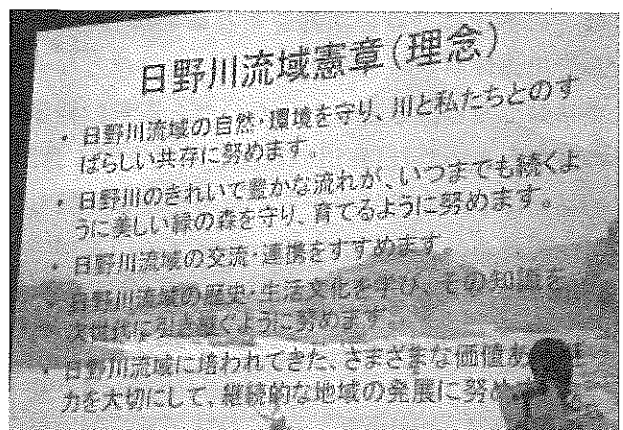
野上小学校と伯耆町立岸本小学校、日吉津村立日吉津小学校の児童が日野川に対する意見発表をおこない、日野川流域憲章を朗読しました。さらに、伯耆町立岸本中学校の生徒が「モルダウの流れ」を日野川に思いを込めて合唱し、記念式典にいろどりをそえました。水をテーマとする展示や地域の物産展、施設の見学ツアー、キッズスクール、アユのつかみどり、日野川流域産ペットボトル水のプレゼントなどの多彩な関連イベントも開催され、式典を盛りあげました。



記念式典(あいさつ、満員の会場)



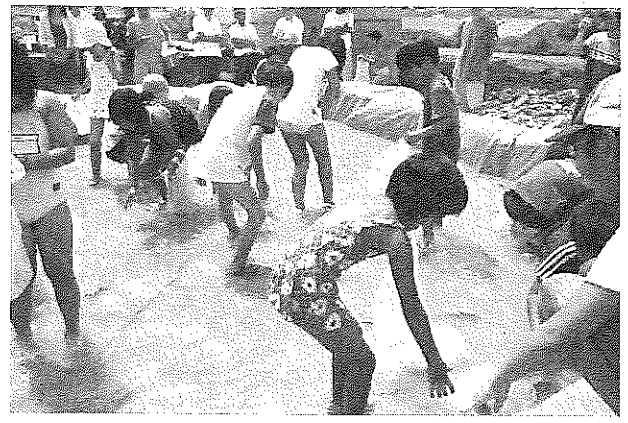
記念式典(中学生たちの合唱)



記念式典 日野川流域憲章を朗読する子どもたち



記念式典(多くの人たちでにぎわう会場)



キッズスクール(アユのつかみ取りを楽しむ子どもたち)

憲章制定に寄せて

「ふる里の山と川 生かそう日野川流域憲章」

米子市水道事業管理者水道局長
田中通雄

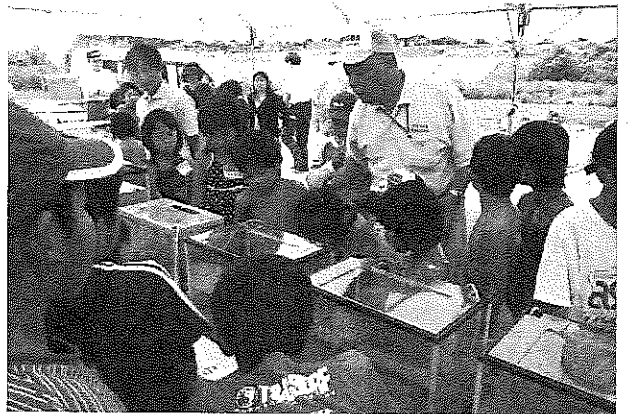
8月23日、暑い夏の日、国交省、鳥取県、流域市町村、関係機関及び各団体等や、ふる里を想う多くの流域住民の熱い願いを込めて「日野川流域憲章」が制定された。まだ全国的には数少ない流域憲章ではあるが、この制定によって目的が果たされたのではなく、これからが始まりである。緑豊かで水と空気がおいしく、キラキラ輝くふる里の自然・文化・伝統などを失ってから取り戻す運動にはしてはならない。今、多くの人たちや団体が、森林の持つ多面的機能を学び、緑豊かな森林づくりに向け、植栽やイベントに取り組んでいます。ありがたいことだ。これからはこの各団体の点の活動を相互に理解し合い、日野川流域憲章のテーマの下で、太い線となって活動できる日を迎えたいものだ。憲章の発想の基でもあった「日野川の源流と流域を守る会」の活動に敬意を表しながら、会の更なる発展も祈念したい。あの8月23日、式典での岸本中学校の合唱「ふる里」が、今でも忘れられない。

(平成20年12月発行 日野川の源流と流域を守る会会報

「ひのがわ」第14号より)



キッズスクール(川の生き物を探す子どもたち)



キッズスクール(川の生き物を学ぶ子どもたち)



米子市水道局を見学(水を学ぶ参加者)

当会では、日野川流域憲章の制定を記念して、米子市水道局と王子製紙株式会社米子工場を見学するツアーを開催しました。参加者からは次々と質問が飛び出し、普段訪れることのない施設に興味津々の様子でした。その後も海岸クリーン作戦実行委員会に参画して海岸清掃ボランティアに取り組んだり、環境イベントにおける日野川の展示や日野川フォトコンテストをおこない、恵み豊かな日野川の良さを広めるなど、日野川流域憲章の理念に沿った活動を続けています。

4 活動の広がり

4.1 日野川への住民の思い

日野川の恩恵を享受している流域住民にとって、河川環境と日常生活が関係していることを意識する機会は少ないと思われました。しかし、憲章制定にあたって流域住民におこなわれた日野川への思いや期待などについてのアンケートでは、600件近い意見や声が寄せられ、大きな反響となりました。流域住民の日野川への関心の高さや広がりが見えてきました。また、日野川流域憲章制定についての報道機関による報道や行政広報誌等を通じて、日野川ブランドを広く発信でき、日野川の大切さをよりいっそう広めることができました。

4.2 その後の取り組み

日野川流域憲章制定後も国土交通省日野川河川事務所を中心として「日野川流域憲章情報連絡会」が組織されました。そこでは環境保全や流域活性化、地域伝統文化の振興といった活動を流域圏の団体が協働して実施していくための意見交換や情報発信が積極的におこなわれています。

流域圏の団体が憲章の理念にそった河川環境保全啓発や流域の文化伝承活動を軸とする活動が展開されています。さまざまな団体間の幅広い連携による活動の充実につながるきっかけにもなっています。

4.3 川を守る活動の広がり

当会では、源流域の森林を豊かにする活動や河川環境保全・文化啓発活動に軸足を置いた活動を展開しています。米子市水道局では、地域経済団体主催の桜苗木植樹イベントへの協力や環境イベントにおける環境保全NPO団体等と連携して、水循環の仕組みや環境保全の重要性のPRなどの取り組みが実施されています。水資源や水環境保全、河川文化の普及・伝承に努めている他の団体の活動も、点から線へとといった連携が多くみられるようになってきました。

河川環境や郷土の伝統文化を守り、次世代に引き継ぐという日野川流域憲章制定の効果が着実にあらわれてきつつあります。

5 おわりに

わが日野川の源流と流域を守る会は、企業や団体、行政機関、学術組織そして多くの市民の方々に支えられながら、活動を続けてまいりました。これからも日野川流域憲章の精神にのっとり、日野川流域憲章理念の普及活動を通じて、水資源や水環境の保全、流域文化の伝承をはかり、鳥取県西部域全体の活性化をも視野にいれ、水と心が豊かなふるさとづくりをすすめます。皆さまとの連携をよりいっそう深め、幅広い活動を続けたいと考えております。私たちの活動に終わりはありません。日野川の源流と流域に幸いあれ！

日野川の源流と流域を守る会事務局
(鳥取県日野総合事務所県民局内)

受賞者へお祝いの言葉

祝 辞

日野川の源流と流域を守る会の皆様、第13回日本水大賞「厚生労働大臣賞」の受賞、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

日野川の源流と流域を守る会におかれましては、平成14年の発足以来、500名超の産官学民の会員の方々が、持続的に連携・協働され、平成20年に制定された「日野川流域憲章」に基づき、森林の保全、河川の清掃、子供たちをはじめとする住民の皆様が参加される環境フォーラム及びたたら製鉄学習、奥大山古道散策等の文化伝承活動など、実に幅広く御活動いただき、水資源や水環境の保全に寄与していることが高く評価されたものと考えております。

鳥取県は神代の時代から大自然の恵みの名水が各地から湧き出しています。とりわけ、日野川の源流と流域を守る会が活動されている県西部地域は、秀峰大山の自然に抱かれた名水の宝庫です。

この貴重な水資源は日本一おいしい水道水の水源となっているばかりでなく、農林水産業や製造業等の産業にも大いなる恩恵を施しており、その保全や涵養は地域の大きな課題となっております。

県といたしましては、平成17年度から森林環境保全税を導入し、広く県民の皆様にご負担いただきながら森林の公益的機能を発揮する施策に取り組んでいるところでございます。

また、平成18年度からは企業の皆様と協働して「とっとり共生の森」の森林整備活動を展開させていただいており、現在では14企業の皆様と協定を締結するまでに発展し大きな成果を生み出しているところです。

今回、受賞されました日野川の源流と流域を守る会の皆様にも引き続き水源の涵養や保全に御尽力いただきますようお願い申し上げますとともに、これまでの継続的な御努力に心から敬意を表し、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成23年6月21日
鳥取県知事 平井 伸治